

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2490400021
法人名	K&Kサポート 株式会社
事業所名	うさぎ亀山 グループホーム
所在地 (電話番号)	亀山市川合町字証田159 (電話) 0595-84-0550
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 12 月 5 日(水)

【情報提供票より】 (H19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 6人, 非常勤 6人, 常勤換算 8.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 300,000 円 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(10 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84.4 歳	最低	79 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おざき内科クリニック
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の経営者が昨年8月に変わっているが職員の離職はない。経営者自身は自分の家族の介護を通じ、福祉や介護の必要性をじかに感じている方である。全職員も想いを共にしながら必要な研修にはできるかぎり参加し勉強して自分を磨き、グループホームの質の向上を図ろうと日々頑張っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回では特に改善点はみられなかった。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員が自己評価をしており、職員自身に気づきがあり新たな発見をしたりして、ケアを見直す良い機会となっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 今年4月以降で2回の運営推進会議が開催されている。しかし参加メンバーの日程調整が難しく事業所としては苦慮している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関にご意見箱の設置はあるが、家族からの要望や意見は出ていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 立地の関係上2つの自治会に入っている。自治会から行事の案内もあり夏祭り等に参加している。幼稚園との交流もあり運動会に行ったり、園児が立ち寄りたりして地域との交流を図っている。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	真心のこもった介護を通じ、地域との関わりの必要性を掲げ、人権と尊厳を大切に介護をめざす理念の掲示がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のミーティングで理念について話している。また、新規採用の職員にも初めに事業所の理念について説明をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っており、地域の行事(夏祭り等)に参加をしている。また、近隣の幼稚園の運動会を観にいったり、園児が立ち寄りしたりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員がそれぞれに自己評価をしている。職員にとっても「新たな発見があり見直す良い機会である」との声がある。外部評価での見直し点については即改善し実践している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加の呼びかけをしているが、参加者の都合もあり、定期的な(2ヶ月に1回)開催には至っていない。	○	参加への呼びかけにはご苦勞があらうと思われるが、今後も積極的な声かけを継続していただき、おおよそ2月に1回以上の開催の実現を目標していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	社会福祉協議会、包括支援事業所、広域連合会に出向き、例えば、ボランティアの受け入れや福祉委員に相談にのってもらったり、更新の手続きをする等して連携をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問機会を増やしていただこうと、利用料金は現金払いとしている。その際に日頃の暮らしぶりを話したりしている。また、預かり金管理につき金銭出納帳をつくりレシートと出納内容をコピーしたものを家族等に渡している。	○	開所当時は広報の作成があったが、現在は発行されていない。プライバシーへの配慮をされつつ、できれば不定期にでもお便りの再発行をしていただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置したり、家族の訪問時に声かけをして、要望や意見等の引き出しをしている。家族から直接口頭で要望がでることもある。その時はすぐ対応しその結果を家族等に伝えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今までに1名の離職者のみで、開所当時から職員がほとんどである。新規採用者には、職員がついて利用者に紹介をしたり、家族等にも報告をして利用者が不安を感じないようにしている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	例えば、身体拘束、消防法改正、食品衛生、高齢者虐待の早期発見等にかかる研修会に職員は交代で参加している。また、研修報告書の提出と情報の伝達をさせ職員間で共有をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の他のグループホーム、小規模多機能事業所間で勉強会を実施し、利用者のケア、職員の確保、事業の運営等について積極的な話し合いが持たれている。12月にも開催の予定がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者と家族と一緒に見学し、職員を紹介したり、居室を見てもらったりして馴染みの関係をつくりあげ、スムーズなサービス提供に至る努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お茶をたてる方や、漬物を上手に漬ける方、菜園に肥料をおく方等から教わるが多く職員も一緒になって学んだり、できない所を手伝ったりして良い関係を作り上げている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買い物や、天気の良い日には散歩に出かけたりしている。なかには電車がほしいという方には一緒に出向き、大いに満足してもらっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	それぞれに担当者が決めてあり日頃の気づきや変化をミーティングで出し合い、全員で話し合ってから計画を作成している。家族等にも声かけはしているがなかなか要望等がでてこないのが課題である。	○	今後も家族の訪問時や電話等の機会を捉えて、積極的に要望や意見の引き出しを図っていただき、より良い介護計画に繋げてほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化がなくても3ヶ月ごとにプランの見直しをしている。また、日常の生活動作の低下や意欲の減退がみられるときには、家族にも報告し随時見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医が内科である為、他科受診を必要とする時には通院の支援をしている。他にも利用者が望めば自宅や墓参りにも一緒に行くようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医が2週間ごとに往診をしている。各個のかかりつけ医を希望される方には引き続き受診できるように支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族のなかには事業所で見てほしいとの要望もある。また、ターミナルに対しての現実感がまだない家族もある。状況に応じ家族等と話し合いは持たれている。	○	ターミナルケアが全てではないが、早い段階で家族、医師、事業所との連携のもと本人や家族が望むケアの更なる支援を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導には「お部屋にいきましょうか」と声かけして、周りの方に配慮しながらおこなっている。居室の訪問等においてもプライバシーに配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に決まりごとはなく、利用者が望めば毎日散歩に出かけたり、花に水遣りをされたり、居室で寛がれたりそれぞれの時間を過ごされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒になって同じ食事をとりながら団欒をしている。調査員にも配膳していただき「どうぞ、お上がりなさい」と言ってくれる。後片付けの光景もみられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるようになっている(午後3時から5時半)殆どの方が毎日入られる。状態に応じ特浴(併設のデイサービスで)、部分浴、清拭や足浴の支援もしている。女性の利用者では順番を当事者間で決めて入っておられる。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し、漬物作り、菜園の世話等それぞれの方ができる範囲で活躍をされている。買い物先では自分の財布から支払いをされる方もあるため見守りながら支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は天候が良ければ毎日でかけている。人とのふれあいもしながら外に出る機会をふやしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠はみられない。利用者が外にでる気配が分かるように玄関ドアに風鈴状の飾り物が2箇所にかけてあり気づくようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時対応マニュアルを作成している。消防署の現地訓練を受け、利用者と一緒に避難、消火器の使い方等の指導を受けている。消防訓練報告書の作成もある。非常時に備え自治会や近所にも協力のお願いをしている。	○	備蓄品の検討もされているとのことであるが、早期の取り組みをお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取のチェックをしている。殆どの方が残さず食べられる。水分については不足がないように随時にお茶等を勧めている。職員に看護師がいる為水分不足の危険性はよく把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は明るく日差しもちょうど良い。室温も適度で気になる臭いはない。テレビの音量も騒々しくない。利用者の手作り品の展示もあり温かみを感じられる。	○	整地した畑に肥料をまき菜園、花壇づくりの準備中である。リビングに花を活けるなど、より一層季節感の演出をしていただきたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	位牌、テレビ、家族の写真等の持ち込みがあり、馴染みのものに囲まれての生活に安心して過ごされている。		